

『大谷崩を歩学（歩いて学ぶ）』

天気予報では雨の確率50%、雨天のエクスカージョンを覚悟しなければならない空模様のJR静岡駅から始まりました。

1億2000万m³の崩壊土砂から静岡市を守っている砂防ダム、床固工、流路工や山腹工等の施設を見ながら大谷嶺登山道を登り、“扇の要”を目指しました。

心配された雨はないのですが、ガスで視界が50m程度の“扇の要”で、幸田文のエッセイ『崩れ』の大谷崩の表現である「畏怖」と「悲愁感」を肌で確かめるとともに圧倒的な崩壊の迫力を目の当たりにしました。

午後の日影沢金山遊歩道では、1トンあたり5kgの金を産出した「坑道跡」、金堀衆の「山神様」、金堀衆が眠る「塔頭の尾根」を巡って当時の盛況と悲哀を見学しました。

雨もなく、無事にエクスカージョンを終わることができました。ある参加者の感想…「これは歩学ではない登学だ！！」

1. 日 時

平成 22 年 5 月 29 日 (土)

8:30~18:00

2. 集合場所

JR静岡駅 北口 交番前

3. 参加者

35名

4. コー ス

8:30 JR静岡駅～(バス)～10:00 赤水の滝(説明)～(バス)～10:40 大谷崩(説明・徒歩・昼食)～(バス)～13:45 魚魚の里～(徒歩:日影沢金山遊歩道)～15:15 奉行屋敷跡～(バス)～15:30～16:30黄金の湯～(バス)～18:00 JR静岡駅

